

核兵器廃絶を求める声明

2015年4月27日から、5年に一度のNPT（核拡散防止条約）再検討会議が国連本部で開かれる。被爆地長崎からは、10団体およそ100人の被爆者や市民がニューヨークに渡り、核兵器廃絶と世界平和の実現を求める諸活動に参加する。

2009年にオバマ米国大統領がプラハで行った「核なき世界」を目指すとした演説は、世界に大きな希望を与えたが、核超大国米・ロの核軍縮は遅々（ちち）として進まず、他の核保有国の核削減の言動も全くない。しかも米国は核兵器関連予算を増やしたり、他の核保有国も核兵器の高性能化を進めるなど「核なき世界」に逆行する動きさえみせている。その上、報道によれば、ロシアのプーチン大統領は、クリミア半島併合時に「核兵器を臨戦態勢に置く用意があった」と発言したという。核兵器保有国による核使用の欲望や威嚇による危機的状況は、繰り返し生起するものであることを思い知らされた。

こうしたいらだつ核情勢はあるが、それだけに今回の再検討会議に期待したい。ようやく「核兵器使用の非人道性」が、国際社会で広く理解され共有されるようになった。核兵器の不使用を求める国連の共同声明に、155カ国が賛同したことでも分かる。こうした動きをバネに、核兵器を使ってはならない、とする国際条約づくりにむけての後戻りしない議論を進めてほしい。核保有国は自国の安全のために核は不可欠と主張するに違いないが、核兵器は「存在する限りは使われる」とわたしたちは確信している。核の恐怖から免れる道は、核兵器廃絶しかない。70年前、熱線に焼かれ、今なお放射能との闘いに命を削っている被爆者の「核と人類は共存できない」との訴えに耳を傾けてほしい。

ニューヨークでの平和活動に連帯し、「グローバルピースウェイブ2015」に参加した私たちは、爆心の丘から「さよなら核兵器！」のウェイブ・波を起こした。今回の再検討会議の一步前進を切望し、私たちも核兵器の廃絶と平和な世界の実現に微力を尽くすことをここに表明する。

2015年4月25日

長崎原爆被災者協議会

長崎の証言の会

核実験に抗議する長崎市民の会

GLOBAL PEACE WAVE 2015 from NAGASAKI 参加者一同